

山 ゆり

11-12月号 No364 2015年11月1日

初号発行:1972年12月25日

山ゆりの会(尾瀬の自然を守る山ゆりの会)

年会費1000円(郵便口座00230-2-42601)

〒246-0025 横浜市瀬谷区阿久和西2-25-16 草野正昭

Tel/Fax:045-364-6515 メール:VZM03024@nifty.com

URL : <http://homepage3.nifty.com/yamayuli/>



■ 12月山行 12/13 弘法山

参加者:小野寺 稲本 加藤 曾根 豊留 長谷川 和田 細谷 河野 松田 草野(11名)

●今年最後となる山行は生憎の空模様、それでも鶴巻温泉の改札には11名が参加。雨がぽつぽつと降る中を出発、温泉街を抜け、東名高速のガード下をくぐると間もなく山道へ。30分ほどで小さなあずま屋のある吾妻山山頂へ。山道は落ち葉が敷き詰められ歩きやすい。コナラの多い雑木林は大半が落葉しているが、ところどころにカエデもあり紅葉と黄葉が美しい。

善波峠の分岐点で、これからの天候を考え、高取山-聖峰の予定コースを変更し、弘法山に向かう。

弘法山山頂には10時に到着。まだお昼にはだいぶ早いですが、雨はほとんど止んでいるのでここで豚汁作り開始。今回は材料のほとんどすべてを長谷川さんが用意してきてくれた。

余るかと思っていた具沢山の豚汁も全て平らげる。雨もまたぽつぽつ降ってきたので、記念撮影をして11時15分下山開始。12時過ぎ、温泉組と分かれて解散。(K)

■ 11月山行

朝比奈切通一名越切通

参加者:遠藤 大内 小野寺 稲本 西村 細谷 草野(7名)

●昨日からの雨が止まず、金沢八景駅8時の集合時間までに参加したのは、若く元気な7名でした。朝比奈切通入り口までバスに乗らず環状2号道路を30分ほど歩く。バス通りから朝比奈切通の標識にそって入るとすぐ横横道路だ。横横道路は朝比奈切通の入り口部分を壊して造られていて、4車線分の幅を頭を下げてくぐるほどの低さだ。くぐり抜けると、ゆるやかな登りで、その先が朝比奈切通だ。久しぶりの参加の西村さんが急に足の痛みを訴え、ここでリタイア。切通を背景に記念撮影をして引き返す。

朝比奈切通は、ほぼ昔のまま残っていて現存する鎌倉の切通の中で最も切通らしいところだ。雨水が流れているが、足元の石が、砂岩のような石のため、濡



れていても滑らず助かった。切通を下り終わって、そのまま鎌倉市中には入らずに、十二所の果樹園目指して登る。いつしか雨は止んでだいぶ明るくなる。果樹園はとうに廃園になっているが、梅や栗などの木がたくさん植わっている。果樹園を抜けると、尾根道にでる。この尾根道は鎌倉と逗子の境界で、逗子側は旧池子の弾薬庫で、今は米軍池子住宅である。

この尾根道は逗子市(?)がやまなみルートとして整備したものでアップダウンの少ないコースだ。途中コンクリートの塀や鉄扉などがあり、旧陸軍弾薬庫の遺跡としても興味深い。尾根道を左へ円を描くようにたどり、久木池に下り、池に面したあずま屋で休憩。池から登ったところがパノラマ台の住宅街、ここを横切った、春に通った名越切通から衣張山へのルートに合流。そこのベンチで少し早い昼食。西の方に青空が。昼食後は以前の逆コースで大切岸へ。鎌倉時代の石切り場の跡とはいえ、壮大なスケールだ。続いて名越切通へ、まんだら堂は今回も公開日に当たり、再度の訪問となった。前回見過ごした見晴台に登る。やぐら郡全体が見渡せる。前回まんだら堂から引き返したため見過ごしてしまった名越切通の第一切通に向かう。向うといっても100mぐらいであろうか、大きな岩がせせり出た、人ひとりが通り抜けるだけの切通だ。広くて長い朝比奈切通とは全く面影が違う。どちらがいいかといえどどちらもいい。ただ残念なのは、その岩の迫った第一切通から100mも行かず住宅が迫っていることである。なぜこんな素晴らしい歴史遺産の近くまで宅地開発をさせてしまったのか、残念だ。



11/15 ; 朝比奈切

逗子市小坪の住宅街から30分ほどでJR逗子駅へ、そこから京急の逗子海岸駅へ。時間はまだ1時半、汗もかいたしどこかで反省会をと店を探せど見当たらず、ドトールコーヒーで打ち上げとする。
(Kusano)

■ 10月山行 箱根旧街道西坂

参加者:遠藤 大内 浜田 大野 和田 小島 小野寺 稲本 田村 草野(10名)

●朝雨の残る一日の始まりです。こんな時でも10名の参加でした。小田原からバスに乗り終点から三島へと歩き始めるのですが、三島に着いてみたらなんと3万歩を超えるほどです。

雨は大したこともなく歩き始めるころは止み始めて居ました。以前にも田村さんの計画で短く旧街道は歩きましたが工程全部を歩くのは初めてです。箱根町から三島まで約20kmの道のり、昔の旅と違って靴も充実している現在とはいえ、歩きとおすには大変です。山坂を森の中をと歩くのですが、昔お偉い方が休んだ碑が有ったり、休憩所の茶屋跡などが有ったりですが、箱根の山は正に天下の剣です。幅数メートルの広い石畳もあれば、狭いところもあり、20キロもの長い所を幾つの石を並べたのでしょう。気が遠

くなります。途中、山中城址という小田原の北條氏の城址がありました。これが今まで見た事もない形を成していて、いわゆる石積み之城壁というもの無く、土を掘り空堀とし、土を積み上げて城壁代わりにしたりで、これが当時お山城ということだそうです。棚田の様に形成し御堀の部分は細かく堀を作り、敵は滑って上がって来れないというふうです。高台からは富士山が見えて戦国時代でなかったならば、ここは最高の別荘地だったでしょう。我々は裏側から入った様で入口には30センチもの太い大きな鳥居がありました。

その先もたっぷり歩いてやっと三島大社に。三島大社はまたまた立派な歴史が有る建物、木、鳥居と迫力満点、地域の人達が参拝したり結婚式をあげたりで賑わっていました。みしまはまたウナギが名物とか、今度は直接三島まで電車を使うなぎでも食べにいきます。

箱根から20km、よく頑張りました。みなさん御疲れ様でした。これが次に繋がるとうれしいです。(和田悦子)

●寄稿「中国東北部」の旅

戦後70年の今年、6/17~24「日本・沖縄と中国の歴史を考える旅」をしました。「日露戦争100年~沖縄人と中国の戦場」著者で、沖縄大学客員教授の又吉盛清先生が同行する、「スタディツアー」です。成田から中国・大連空港までは3時間5分、空港から目的地までは専用バスや高速列車(時速300km超)で移動、現地ガイドと又吉先生の解説も多くあり、充実した旅となりました。

旅順・大連・丹東・撫順・瀋陽・長春・ハルビンなど都市中心部にはどこも



高層ビルや高層マンションが建ち並んでいましたが、瀋陽から長春を経てハルビンに向かう高速列車で2時間半走っても車窓の景色は変わりなく見渡す限り畑が続いていて、中国大陸の広さに圧倒されながら「この広い畑はどうやって耕しているんだろう」「かつて日本人が満州から引き上げるときにはこの広い大地をただひたすら歩いたのだろうか」などと想いながらずっと窓の外を眺めていました。

6/20は中国旧暦の「端午節」で、6/22まで3連休となり、高速列車にも家族連れが多く、隣り合わせた家族と果物やお菓子の物々交換、頂いた物の色・形、見た目は「柿」のようだけど食べてみたら「甘いトマト」でびっくり!・・・楽しい時間を過ごすことができました。

日本が中国でしてきた戦争について、歴史的な経過よくわからず、内容も断片的な知識しかない私にとって今回の旅行では情報が多すぎて消化不良!帰ってきてから少しずつ復習をしているところです。現地を訪ねて特に印象に残ったところをいくつか紹介します。

1931年満州事変の引き金になった「柳条湖事件」現場近くに建てられた「9・18事変記念館」には抗日戦争時代の写真やパネルなどが多数展示され、詳細な説明がされています。「9・18」が国家屈辱の

象徴だけではなく中国の抗日戦争の始まりの象徴でもあり、中華民族の歴史を見直す教育の場として活用されていることを痛感しました。

1932年満州事変の1年後、抗日ゲリラが村を通過したことを通報しなかったという理由で日本軍が村人3000人を虐殺した「平頂山事件」。その現場に子どもや年寄含む村民800体の白骨化した遺骨をそのまま保存してある「遺骨館」があり、うす暗い建物の中で言葉を失い、息もできないほどでした。

「731部隊資料館」は第2次世界大戦中に細菌・凍傷・毒ガス実験を強行、3000人以上の中国・朝鮮人らを「マルタ」と呼んで生体解剖した後、全員を殺

害。その主要な施設は敗戦直前に証拠隠滅のため爆破された跡地が「遺跡」として保存されています。資料館は改築中でしたが、広大な敷地内には線路もあり、かつて建物があつた地下を掘り起し、731部隊のすべてを明らかにして世界の人に発信していきたいと語る中国の若い研究者（資料館責任者）の熱心な説明が印象に残りました。

いづれも忘れてはいけない歴史の事実であることを、現中国が強力にアピールしていることを痛感、そして私は日本の「戦争の歴史」を深く胸に刻み、戦争のない平和な世界であってほしいと心から願います。（大内とも子）

■ 1月：1月17日(日) 景信山一高尾山

★

2016年最初の山行です。ふるって参加ください。

- ・集合：朝8時30分 中央線・高尾駅 京王バス小仏峠行き：8:52乗車予定
- ・持ち物：昼食、雨具など

■ 2月：2月14日(日) 多摩自然遊歩道

㊦

東生田自然遊歩道を合わせて約12kmをゆっくりたっぷり歩きます。

- ・集合：JR南武線 稲田堤駅 朝9時
- ・持ち物：昼食、雨具など

■ 例会の予定

- ・1月19日(火)：11月例会
- ・2月16日(火)：12月例会

あとがき ・COP21が2020年以降の地球温暖化対策の新たな枠組み「パリ協定」を採択。史上初めて196ヶ国・地域が参加する枠組みが誕生する。消極的なアメリカの合意を取り付けるために、削減義務に拘束力のある担保がないことにマーシャル諸島などの島嶼国や貧しい小国などから早くも批判が得ている。・日本の削減目標2013年比26%（1990年比18%）は、EUの1990年比40%と比べて極めて消極的、石炭火力の増強や輸出推進など、脱炭素を明確にしたパリ協定の精神から大きく逸脱している。気温上昇2度未満か

らさらに「1.5度未満」を打ち出したパリ協定に対する先進国日本の責任は重い。・安保法制(戦争法案)への怒りが廃止を求める運動へと全国に広がっている。一億総活躍をうたった新三本の矢、8%に据え置くだけの軽減税率の導入、結局は大增税に違はなく、7月の参院選挙めあてに安倍政権は必死の様相だ。何をしようが、我々は憲法違反の安倍政治を忘れないし許さない。・翁長沖縄県知事の辺野古埋め立て承認取り消しに対し、なんと国が知事の権限を取り上げる代執行訴訟。アメリカのためにここまでやる安倍政権とはいったい何なのだろうか。

・十二桁の数字賜る寒さかな 【K】